



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターネットへようこそ 最終回 : マルチメディア講座実践編
Author(s)	高井, 哲彦
Citation	英国ニュースダイジェスト, 510, 14
Issue Date	1995-10-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53060
Type	article
File Information	newsdigest510.pdf



マルチメディア講座 実践編

インターネットをどう使うか

講師 高井哲彦

最終回

言論の自由と統制のジレンマは、インターネットの最大の争点です。最終回の今回は、著作権、プライバシー、テロリズム、ボルク、差別などの問題を焦点に、統制の是非について考えます。

●著作権の保護と言論の自由

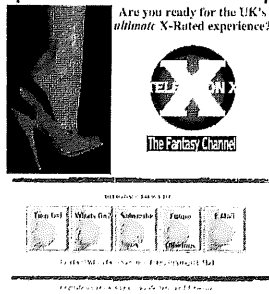
一九九五年二月十三日早朝、カリフォルニアのデニス・アーリックのアパートを捜査令状をもった警官を伴って「サイレントロジック」という宗教団体のメンバーが訪れ、書類とデータを押収しました。

サイレントロジック教団は一九五二年にあるSF作家がカリフォルニアに設立した八百万人規模の教団で、元幹部のアーリックがインターネットを通じて教団の文書を公開してきたことを、かねてから強く抗議していました。

教団は、インターネット上のこの問題を議論する宗教関係のニュースグループの閉鎖を求め、アーリックに対してインターネット・アクセスを禁じる目的でパソコン通信運用者とインターネット・アクセス提供者を訴え、さらにニュースの閲覧を止めるよう各ネットワークに圧力をかけました。

裁判所は、アーリックによ

ベントハウスなど世界のボルク雑誌40誌をインターネットを介して見ることが出来るサービスを提供する「X-SITE」に注目の意があるが、実際には家庭のパソコンを通じて誰でもアクセスできてしまう
© Northern & Shell PLC.



論点です。

●90年代は情報自由主義

情報とコミュニケーションの自由流通を主張する最大の擁護者は、一九九〇年七月に設立されたエレクトロニック・フロンティア・ファウンデーション(EFF)です。『ヴァーチャル・コミュニティ』の著者、ラインゴールドもその論客の一人です。八〇年代には、リチャード・ストールマン率いるフリー・ソフトウェア・ファウンデーション(FSF)が、一群のソフトウェア「GNU(グニユ)」を無償開発し、「コピーレフト」(自由な複製・流通・修正)というユニークな原則を提唱しました。GNUの思想を「情報共産主義」と呼ぶとすれば、九〇年

する。プライバシーと情報の安全性をどのように守るか。ボルクなど不快情報からいかに自分や子供たちを遠ざけるか。差別発言や犯罪マニュアルなどの反社会的情報をいかに統制するか。また、いかに立法者、アクセス提供者一部利用者が、対立意見を押しさへつけないように保障するか。要約すれば、言論と情報流通の自由を守るか、規制するべきか。それが現在最大の

社会的情報についても、政府やアクセス提供者による恣意的なインターネット統制に反対し、この問題について米国の議会や法廷で主役を演じています。プライバシー保護に関心する利用者は、大学や企業などのアクセス提供者が自主規制ガイドラインを慎重

高く評価すべきですが、私自身はいくつか批判もあります。他者の権利を侵害しない限り、言論の自由は保障されるべきでしょう。しかし、情報流通については、大学や業者などのアクセス提供者が自主規制ガイドラインを慎重

似た爆弾マニュアルは、スコットランドのダンディー大学のWWWで公開されていたそうです。しかし、個人々々の反社会的な発言を規制しなくとも、アクセス提供者を通じて情報の地域流通を行政的に管理することは、可能かつ必要はあります。

近年ガーンジー・メロン大学は、ボルク関連のニュースの学内流通をブロックしました。EFFがその不透明な決定過程を批判したのは正当でしたが、大学や業者などのアクセス提供者の大半が、情報流通に対して自らの責任を見合っただけのポリシーをまだ確立していないことが問題でしょう。「ボロコースト」は存在しなかったなどとする、社会的

インターネットの展望

に電子メールでクレジットカード情報を送るときには、暗号化ソフトPGPの使用を勧めています。

●はびこるネット上の犯罪・差別

EFFによる議論の蓄積は

に設定し、各地域の法律、慣習とネット普及の程度に合った、少しずつ自由化するのを目指しています。

国境をまたがるインターネットに、一国の法律を適用するのは確かに難しいかもしれませんが、事実、オクラホマの米連邦政府ビル爆破事件に類

●大衆のための伝達手段

インターネットの伝統文化

が民主的で開かれたものであることは、その空気を呼吸した者誰もが実感することです。新しい要素を常に取り入れ流通させていくことが情報ネットワークの生命線である以上、インターネットはこれからも新規加入者を歓迎し、成長していくことでしょう。多くの専門家は、コンピュータが将来、フランスのミニテルのような大衆的なインターネットの端末機に発展解消される可能性を予想しています。インターネットが全世界の金階層のコミュニケーション手段となるときこそ、ジョン・スチュアート・ミルが十九世紀に夢見たような、法律や国家による統制もない真に自由な議論が実現されるのではないのでしょうか。